

ゼロアップセンター アンビアン便り 11月

徒然なるままに……

『フィールド』を読んだお客様からのご要望で、宇宙はひとつの『エネルギーの海』と言うことを私なりに受け取った情報をお伝えしようと、シリーズで書き始めました。私はどちらかというと感覚派なので、書いて伝える難しさを味わいながら、この経験を楽しんで引受けています。

元々、説明して理解できる世界ではないのですものね。しかも人類の数千年(数万年?)の叡智、多くの先輩諸氏の学び・気づきを、理解というより、少しでも感じてもらえれば……と思っています。デカルトの「我思う、ゆえに我あり」は、「我感じる、ゆえに我在り」と理解しています。

全てのエネルギー(周波数)を均一に含んだ完璧なフィールド、“光の海”、全ての可能性を含んだニュートラルな“場”、『ゼロ・フィールド』を科学的に認識できる時代が来ました。

『エネルギーの海』に駆け込んだ意識エネルギーの「場」である“私”を感じられたでしょうか?

「理解は難しいが、何となく腑に落ちた感じかな…」との声。ではシリーズ6回目を……

宇宙はひとつの『エネルギーの海』

“私” = 意識 = 波動 = 情報 = 光 = 周波数

7、 (意識 = 波動 = 周波数) 情報発信しなければ受け取れない、キャッチできない

前回6 (意識を向けたものが現象化する(引き寄せの法則)。を言い換えれば7、と同じです。全てを均一に含んだフィールドに、“ある情報(意識 = 波動 = 周波数)”を発信すると均一を破ります。波と波がぶつかり均一が破れ歪みが起こり、干渉が起こり、“ある光”、“ある音”、“ある形状”として現れます。情報(周波数)発信の現れをキャッチした結果が『有』。空即是色です。発信しなければ結果も生まれない、ないものは受け取れないです。当然ですね。

逆に、発信すれば共鳴したものが現れる = 現象(引き寄せの法則)即ち結果を受け取ります。情報発信 > 干渉・共鳴 > 現象 = 結果・受信、受け取ります。そこで、シリーズを通してお伝えしてきたように、情報 = 意識です。そう、私達は思い通りの人生を創造していると言う事です。

そんなはずない!とりたいところですが、良くも悪くも「潜在意識」の思い通りの人生になっているようです。自分も気付かない無意識 = 「潜在意識」というもう一人の自分が、多大な力を持っています(5月号)。なので気付かない意識・波動を発信しており、多々影響を受けながら

自分の人生を創造しているのです。本来の自分からズレてきています。が、自分にかわりありませんね。そんな意味も含んだ思い通りの人生です。潜在意識は感情&気分が重要な鍵です。

私達は無意識に受発信しています。無意識なので(訳も解らず)有り難いサイン、“お知らせ”を気付かないままやり過ぎたり、不都合な事として押さえ込んだり...と言う事が多いようです。生き方が「違うよ!」という“お知らせ”に気付いて、生き方を正せば自然に解消して行きます。ズレを戻そうとしてする為の働きと言えます(8月号)。

生物学的には“自然治癒力”と言われていています。押さえ込むのはもったいないですね。

一般に、ズレが少なくなるにつれて心は軽く、いい気分でご過ごせます。そして第六感や直感が冴えるようです。また喜びのシンクロニシティも多くなるようです。

8、一人では3次元世界に存在できない(誕生とは違った意味で)

“私”はたとえ意識の現象化で3次元に現れても、認識するもの(人)がなければ、ただ『在る』だけです。一人で『在る』だけでは『有る』ことは不可能なのです。他人に存在を認識されて初めて3次元に存在できるのです。いわゆる『無』から『有』の共感覚幻想(マトリックス)です。量子力学ではこの事を観察者意識と言います。

ラジオを例にしましょう。ある局に周波数を合わせるとその局の番組が聞けます。その周波数電波は元々『在る』のです。が、『在る』だけでは聞こえません。周波数に合わせる、即ち同じ周波数電波を発信し共鳴させる事で、音が現れ、聞く事ができるのです。

このように3次元世界に存在するには、“私”が『在る』だけでは不可能なのです。『有る』と認識してくれる観察者意識 = 相方、色即是空で『無』から『有』の共感覚幻想の相方、受発信の相方、共鳴する相方が必要です。とても意味深いと思われませんか!? 一次回、シリーズ終盤ですー

私達の心(潜在意識も含む)の世界が、外の世界に反映されています。心の世界が本来の自分に還ると、現実の世界が変わります。元々、完璧な、エネルギーの海の意識エネルギー体です。

ゼロアップセンター アンビアン

豊中市向丘2 - 10 - 7 - 202

TEL 06 - 6854 - 8810

E-MAIL zero@anbian.jp

ホームページ <http://anbian.jp>